

平成27年度 豊かなむらづくり全国表彰事業

～勝連南風原集落、農林水産大臣賞受賞～



出展：うるま市教育委員会

勝連南風原集落は、城下のむらとして長い歴史を持ち、琉球王朝時代の優れた指導者たちの肝高（きむたか）の精神とオクラ（オクラ）の精神とオクラで集落活性化を掲げた当集落の取組について詳しく紹介します。

地域の概要

平成27年度豊かなむらづくり全国表彰事業において、うるま市の「勝連南風原集落」が農林水産大臣賞を受賞し、11月13日に沖縄総合事務局において、伝達式が行われました。県内初のオクラ拠点産地であり、「肝高（きむたか）の精神とオクラで集落活性化」を掲げた当集落の取組について詳しく紹介します。



伝達式の様子

当表彰事業は、農林水産祭の表彰行事7部門（農産、園芸、畜産、蚕糸、地域特産、林産、水産、むらづくり）の一部門として昭和54年から実施されているものです。農林水産業の振興を中心に、生活、文化等を含む幅広い地域活動を開催し、地域の活性化を図っている優良事例の表彰を行い、その業績発表等を行うことによって、むらづくりの全国的な展開を推進し、農林漁業及び農山漁村の発展に資することを目的としています。

農林水産大臣賞伝達式

農業生産活動の概要

勝連南風原集落を含むうるま市は、県内初のオクラ拠点産地であり、「肝高（きむたか）の精神とオクラで集落活性化」を掲げ、高齢化が進む中、地域リーダーの育成や栽培技術の向上、規格外オクラの活用など、オクラを中心とした地域活性化の取組が行われてきました。

特に、沖縄県立中部農林高校の女子グループが生産農家と連携して商品開発した「オクラ麺」はメディアで数多く取り上げられるとともに、「日本学校農業クラブ全国大会」などでも高い評価を受けています。



オクラ麺の取組はうるま市青少年特別賞を受賞

地域づくりの特色

勝連南風原集落では、五穀豊穣を願う豊年祭や無病息災を願う「島クサラ」など琉球王朝時代から続く伝統行事が数多く受け継がれ、集落住民の生活に深く根ざしています。一方で、都市化が進む中、当集落の連帯感を高めるため、集落住民が集う「かつちん南風原まつり」や、獅子舞等の古くから伝わる伝統芸能の保存を目的とした協力し合いながら、花と緑あふれる景観作りにも力を注いでおり、農村・都市混在型の新たなむらづくりへの挑戦が続いているです。



集落の共同井戸（ムラガゲ）の修繕・整備のため、子どもたちも含めた住民が協力



かつちん南風原まつり



「希の会」は、ボランティアで集落の美化活動に取り組む